

中学校区におけるめざす子ども像 人権意識を高く持ち、特別支援教育を通して、自己肯定感が高く、他者への思いやりある児童・生徒。 特別支援教育の視点に立った、誰一人取り残さない教育の実践。										堺市立		三原台小学校							
令和7年度 重点目標 ◇子どもに示す目標 心身ともに健康で、創造力に富んだ 主体的な児童の育成（知・徳・体の調和のとれた児童の育成） み…みんな仲よし三原台っ子(豊かな心の育成) は…はつらつと体力アップ三原台っ子(体力向上) ◇教職員に示す目標 総合的な学力の育成(基礎学力向上・教科学力向上・学びのコンパス) 子ども理解(特別支援と人権感覚) 教師力・チーム力の向上(基礎的環境整備) 信頼される学校・開かれた学校										◆求める児童像 ・考え工夫する子(創造性) ・協力する子(協調性) ・やりぬく子(自主性) ら…らくらくと読書100冊三原台っ子(読書活動の推進) だ…誰とでも元気にあいさつ三原台っ子(豊かな心の育成) い…いつも自分で考え発表できる三原台っ子(思考力と表現力の育成)									
「確かな学び」の現状 これまで堺版授業スタンダードの定着をめざし授業改善に取り組んできた。児童同士の交流や発表の場が授業時にはよく見られるようになってきている。今年度は「学びのコンパス」が提示され、より主体的に学習に取り組める児童の育成をめざす。また学校群として、9年間を見据えた「特別支援教育の視点に立った誰一人取り残さない教育」に取り組んでいく。全校的には、基礎基本の学習を繰り返し行うことや家庭学習・自主学習の定着に重点を置き、タブレット端末の授業時の活用についても前年度より時間を増やし、授業の中で、ICTをより効果的に使用してGIGAスクール構想の推進をさらに進めていきたい。										「豊かな心・健やかな体」の現状 本校において、集団生活になじめない児童の増加や体力低下がいまだ課題である。現在、個別の支援をおこなっていくことが必要な状況は多くあるため、今年度も学校群をベースに、また、外部機関とも連携し、特別支援教育に立った個別最適な学びの実現をめざし取り組んでいく。また協働的な学びを通して、子どもたちの「自己肯定感」「思いやりの心」を育てていきたい。大きな課題である体力低下の面については、全校あげて体力アップの取組をすすめたい。学校協議委員会でご意見をもとに対策をとったり、授業時の体力づくりの準備運動を全校で共有したり、日常生活や家庭でできる体力向上の取組などを推進し、さらなる全学年児童の体力向上をめざす。									
確かな学び	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価 時期	進捗確認 (年度途中)		達成状況(年度末)										
									自己評価		学校関係者評価								
	基礎学力向上	1. 日本語力の育成と読解力の向上のために、「書くこと」やICT等を活用した「他者との交流」を大切にしたい。問題解決型学習の研究を進め、基礎基本を定着させるとともに、学習の過程がわかるノートづくりによる思考力の育成を図る。	●日本語力の育成と読解力の向上のために、「書くこと」やICT等を活用した「他者との交流」を大切にしたい。問題解決型学習の研究を進め、基礎基本を定着させるとともに、学習の過程がわかるノートづくりによる思考力の育成を図る。	研修教科「国語」において、初発の感想、学習の道筋を順序だてて考え、読解力の向上を図るため、問題解決型学習の実施をし、自分の考え方を「書くこと」を80％以上取り入れる。また、自力解決から交流活動へ展開する過程を80％取り入れる。これらをその他の教科でも80％以上取り入れる。	・ノート、ワークシート ・学校評価アンケート ・到達度テスト	7月 1月	B	7月 A: 37.5% B: 62.5% C: 0.00%	1月										
		2. 朝の学習(漢字・語彙の習得)や本読み活動において、基礎的な「話す・聞く力」、「読む・書く力」をつけ、児童の自己肯定感を高める。	○朝読で担任による読み聞かせ活動を行うとともに、副教材等を用いて、発達段階に応じて、「漢字学習における語彙力の強化」を小テスト等を用いて、継続的に授業や朝の学習で取り組む。	・朝の読み聞かせをすることで、本に親しみを持つ子が増え、児童アンケート「読書は好きですか」の達成率70％以上。 ・漢字学習における語彙力の向上。達成率80％以上	・CBTアンケート ・各学年取り組みの交流 ・漢字、言葉の小テスト・大テスト	7月 1月	B	A: 28.6% B: 71.4% C: 00.0%											
		3. 教科書の活用(利用)をテーマに授業改善を行い、ICTを効果的に用いることで、教科学力を向上させ、児童の自己肯定感を高める。	○教科書を使った「わかる・できる授業」で、児童に知識・技能を習得させ、教師が教科書の内容(知識・技能・考え方等)を理解し、教科書を活用して授業を行う。「学びのコンパス」を加味した授業スタイルの構築をめざす。その際、ツールとして、一人一台のタブレット活用を効果的に行う。	・4～6年は、学力テスト・到達度テストの正答率を75％以上にする。 ・1～3年は到達度テストの結果で、知識技能の定着率90％以上にする。 ・児童・保護者アンケート「授業はわかりやすく、勉強ができるようになる」の肯定的回答のアップに取り組む。	・学力テスト ・到達度テスト ・学校評価(保護者・児童)アンケート	7月 1月	B	A: 25.0% B: 75.0% C: 0.00%											
		4. 「授業のユニバーサルデザイン化」を推進し、学習活動に生じる困難さに応じた指導上の工夫を行う。	★明確な発問・指示をする。ICT活用による視覚支援。課題をスモールステップ化し、集中しやすい環境を整備する。常に肯定的にほめる(評価する)等、子どもたちが「わかる・できる授業」の展開をめざす。(学校群めあて「誰一人取り残さないわかる授業づくり」の推進)	・児童アンケート「授業はわかりやすく、勉強ができるようになっている」の項目の肯定的回答のアップに取り組む。	・学校評価アンケート	7月 1月	B	A: 50.0% B: 50.0% C: 0.00%											
家庭学習	5. 家庭学習習慣を確立する。	●きらりノート等を用いて、自ら進んで学習を行う自主学習への取り組みを推奨する。	・児童アンケート「きらりノートに進んで取り組んでいる」の項目の肯定的回答のアップをめざす。 ・保護者アンケート「子どもは、家で自主学習等の家庭学習をしている」の項目の肯定的回答のアップをめざす。	・学校評価アンケート	7月 1月	B	A: 33.3% B: 50.0% C: 16.7%												
豊かな心・健やかな体	心の教育	6. 教育活動全体を通した人権教育の推進とともに教科化された道徳について実践を積み上げることで、他者理解に努め、自分を大切にすることの育成を図る。	●特別の教科「道徳」や人権教育の授業を中心に「いじめ」や「差別」は、絶対に許されないことと位置づけ、自分も他者も大切にしたい人権教育を推進する。道徳の時間においては、道徳的価値を心にしかりと受け止めることで、よりよい生き方を考え、人間関係力の向上に努める。また、評価においては、「子どもを励まし、勇気づける評価」を行う。	・子ども間のトラブル等について質的・量的ともに前年度に比べて良化をめざす。 ・保護者アンケート「学校は生命を大切にしたい心や、社会のルールを守る態度を育てている」の肯定的回答のアップをめざす。	・道徳ノート・ワークシート ・各学年の取り組みの報告 ・学校評価アンケート	7月 1月	A	A: 75.0% B: 25.0% C: 0.00%											
		7. 自ら進んで挨拶をする子どもの育成によるコミュニケーション力の向上。幼保小中連携の「みんいく」の取り組みを行い、生活習慣の改善を図る。	○自ら進んで挨拶すること、児童同士でも丁寧な言葉使いができるようにすることで人間関係力の向上を図る。 ○縦割り活動やクラス活動などで児童同士のコミュニケーション力の向上を図り、人の役に立つ活動を通して自己肯定感・自己有用感を高める。 ★みんいくを軸として生活習慣の改善を図る。	・人間関係力の視点より、児童アンケート「学校が楽しい」の項目の肯定的回答のアップをめざす。 ・児童アンケート「私は自分からあいさつができています」、保護者アンケート「子どもはあいさつができています」の肯定的回答のアップをめざす。	・学校評価アンケート ・各学年交流活動等の取り組み報告 ・みんいく推進委員会での報告(みんいくアンケート)	7月 1月	A	A: 62.5% B: 37.5% C: 0.00%											
		8. 「いじめ」の未然防止・早期発見・早期対応・早期解決を図る。不登校児童への理解と、居場所づくりと教育支援。	★予防的効果がある「いじめ」アンケートを実施や児童の情報共有ファイルの作成と日常的な観察によって早期発見に努め、組織的に早期解決を図る。 不登校児童への組織的支援を図り、不登校数の減少を図る。	・児童アンケート「命を大切にすることや、『いじめ』をしてはいけないことを教えてもらっている」の項目の肯定的回答のアップをめざす。 ・保護者アンケート「学校はいじめのない学級づくりに取り組んでいる」の肯定的回答のアップをめざす。	・学校評価アンケート ・いじめ対策委員会での報告	7月 1月	A	A: 62.5% B: 37.5% C: 0.00%											
	体力向上	9. 運動量と安全性を確保し、一定水準以上の体力・運動能力を保障する。体育授業で成功体験を積ませることで、運動嫌いの児童を減らし、二極化を解消する。健康教育(保健指導・食育)を適時行い、健康の保持・増進を図る。	○「小学校体育指導の手引」等を積極的に活用し、教材研究に取り組む、「意欲」「思考」「技能」を習得させる。 ○昨年度の課題を分析し「体づくり運動」の内容を考え、体育の授業等で継続的に取り組むことで体力向上を図る。 ○保健の授業や栄養指導等において、児童が主体的に健康の保持・増進を図ろうとする態度を身につける。	・児童アンケート「体育の授業で体を動かすことは楽しい」「体育の時間で運動が上手になった」の肯定的回答のアップに取り組む。 ・昨年度の新体力テスト結果より、「脚力強化」「握力強化」に重点を置いて指導する。それらの改善が図れたかを検証する。 ・学校医による健康診断結果や定期的な残食調査のデータをもとに、児童の生活習慣について検証・改善をする。	・学習カード ・学校評価アンケート ・スポーツテストの結果 ・学校保健委員会	7月 1月	B	A: 50.0% B: 50.0% C: 0.00%											
教育環境整備	10. 安全で安心できる学習環境に整備することで、落ち着きと学習に関する静謐さを保てるようにする。	●教室環境や授業の基礎的環境整備を徹底することで、安全で安心できる学習環境を保てるようにし、子どもの落ち着きを確保するとともに、誰もがわかりやすい授業を行う。 ○授業中や行事、休憩時間、登下校中の安全確保に努める。 ○安全教育・防災教育の充実化	・保護者アンケート「子ども一人ひとりが大切にされる安心、安全な場所になっている」の肯定的回答のアップに取り組む。 ・各教員が教室の整備状況や登下校指導、休み時間の過ごし方等のチェックを行い達成率の向上に努める。	・学校評価アンケート ・毎月の安全チェックによる施設環境整備	7月 1月	B	A: 50.0% B: 50.0% C: 0.00%												
校長より(年度末)							学校関係者評価者から(年度末)												